

## 資料1 実施概要

### 1. 清水港内での採泥観測 観測目的

清水港、折戸湾の底質環境に関しては、10数年前に福江らが行った総合的な観測以来、目立った観測が行われていない。そこで、清水沿岸部で小型舟艇を用いた底質採取を行い、微生物種構成や存在する微生物遺伝子の情報の分析を行う。

### 2. 観測概要

底質採取：船装備の測深器で水深を確認後、船位置を保持した状態でウインチを用いてスミスマッキンタイヤ型採泥器(1回あたりの採泥量 50程度)を海底まで下ろし、底質採取を行う。採取した底質は、船上で簡易計測器を用いて温度、pH、酸化還元電位を計測するとともに、プラスチック瓶に入れ持ち帰り、後日の試験に用いる。底泥採取では、器材降下から回収までの時間は20分程度である。



スミスマッキンタイヤ型採泥器

### 3. 調査概略位置

地点番号	区域名	緯度(北緯)	経度(東経)
1	清水港内	34° 59' 17"	138° 30' 23"
2	清水港内	34° 59' 27"	138° 30' 27"
3	清水港内	34° 59' 42"	138° 30' 14"
4	清水港内	35° 0' 8"	138° 29' 55"
5	清水港内	35° 1' 48"	138° 31' 3"

位置図については資料2を参照

### 4. 使用船舶および実施体制

東海大学所有 南十字

責任者：仁木 将人

操船担当：東海大学清水船舶運航課

### 5. 乗船実施日

2023年8月22日火曜日 10時00分～15時00分

資料2 調査地点の概略位置

地点番号	区域名	緯度(北緯)	経度(東経)
1	清水港内	34° 59' 17"	138° 30' 23"
2	清水港内	34° 59' 27"	138° 30' 27"
3	清水港内	34° 59' 42"	138° 30' 14"
4	清水港内	35° 0' 8"	138° 29' 55"
5	清水港内	35° 1' 48"	138° 31' 3"



## 実施上の安全対策と連絡体制

### 1. 安全対策に関する事項

- (1) 観測開始にあたり、担当及びサポートスタッフ間での観測内容の確認打ち合わせを行う。
- (2) 観測開始前に参加者の体調確認を行う。
- (3) 大学内船舶管理部署への乗船名簿を提出する。
- (4) 乗船者に対する乗船中および機材操作における安全に関する注意事項を説明する。
- (5) 乗船者は乗船中ライフジャケットを装着する。
- (6) 乗下船時、緊急時に点呼を行う。
- (7) 気象情報、特に注意報警報の発表に留意し、天候他により大学船舶管理部署、操船担当者または乗船者が危険と判断した場合、清水海上保安部及び清水漁協から中止指示があった場合には観測を中止する。次の場合には、作業を中止する。

風速 10m/s 以上、波高 1m 以上、視界 1000m 以下、潮流 1.5 ノット以上

- (8) 操船担当者および乗船者は観測中の安全を常に確保するため、他船舶等の位置や航行に十分注意する。
- (9) 不測の事態が生じた場合は、乗船者の安全確保及び事故者の手当てとともに、下記連絡体制により諸機関への連絡と指示を仰ぐ。
- (10) 付近に航行船舶がないことを確認の上、作業を行う。なお観測に直接参加しない見張り員をおく。
- (11) 他船の安全な運航に支障を及ぼす恐れのある場合は、作業を中断し、航行路を確保する。
- (12) 現場には許可書または許可書の写しを携行し、同書記載の安全対策の各事項を全ての作業員に予め周知徹底する。
- (13) 作業船は海上衝突予防法及び港則法の規定事項を順守する。
- (14) 夜間作業を実施しない。
- (15) 材料、資機材等が海面に落下しないよう措置を講じる。
- (16) 流出の恐れがあるものには所有者名を表示する。また流出防止措置を講じる。
- (17) 万一資機材等が流出した場合は、直ちに清水海上保安部に通報するとともに全力で発見回収する。
- (18) 下記関係先に周知する。
  - 清水港管理局
  - 清水漁業協同組合
  - 清水船舶情報センター
  - 一般社団法人ふじさん駿河湾フェリー
- (19) 地震及び津波に対する安全対策
  1. 南海トラフ地震に関する情報(臨時)が発表された場合は、以後の情報入手に努めます。
  2. 津波に関する情報が発表された場合は、作業を中止し、津波来襲までの時間的余裕がある場合は、港外(水深 200m 以上)退避又は係留避泊、他の船舶の支障とならない海域で錨泊し、津波来襲までの時間的余裕がない場合は、係留避泊、錨泊又は陸上避難します。

## 2. 緊急時連絡体制

